

麻生区区民会議 安全・安心のまちづくり部会 検討経過報告

審議テーマ「大地震から助かる命を守る」

3つの最優先テーマ

死者数を0にすることを目標に、区民による主体的な取り組みにつなげる（火災死者26人→0人 建物倒壊死者16人→0人「川崎市地震被害想定報告書（平成25年3月）」からそれぞれの死者数の最大値を引用）

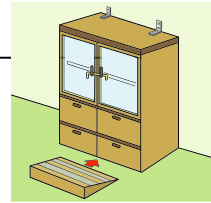
- 1 家屋の倒壊防止
- 2 家具の転倒防止
- 3 火災予防・火事発生への対応

モデルの事業

2つの優先テーマ

- 4 災害時に救援・援護を必要とする方々への対応
- 5 負傷者または生き埋め者の救助となった方々の一刻も早い救助、手当、安全な場所への収容

< モデル事業での取り組み >



① モデル事業の目的

- ◆ 「大地震で助かる命を守る」に向けて、地震防災対策に関する区民の主体的な取り組みを促進する

② モデル事業の内容

- ◆ 区内の住戸を選定し、明治大学建築学科及び専門技術者グループが家屋の地震安全性などを確認、家具の転倒防止対策を中心とした防災に向けた対応を実施する
- ◆ 家屋の倒壊防止、家具の転倒防止、火災予防・火事発生への対応の観点から実施すべき対策を提案するとともに、特に家具の転倒防止に関しては実際に家具の固定工事や移動など必要な地震安全対策を実施する
- ◆ 実施前後の住まい手の意識・認識の変化を含め、モデル事業の評価・検証を行い、対策の普及に関する問題点や課題を把握して、今後の対応策の検討に役立てる

③ 広報・周知

- ◆ モデル事業の実施結果やそこから得られた成果を取りまとめ、普及・啓発に活かすためのツールを作成し、区民への普及啓発を通じて地震防災対策に関する取り組みの促進につなげ、死者数「0」を目指す

< モデル事業の実施状況 >

活動計画・実施体制の検討(4~8月)

- 募集方法:地域メディア等による公募、委員による個別発掘
- 実施体制:明治大学園田教授による監修、学生の協力
- 事業内容:家屋の転倒防止対策を中心に実施
- 記録、評価・検証内容:普及・啓発のための紙媒体・DVD等作成のための記録、対象世帯にアンケートを実施

モデル対象地区の募集・決定(6~9月)

- マンションは1グループ、戸建ては1戸から再募集し決定

最終的にマンション6戸、戸建て13戸を選定

実施内容の決定(9月)

- 作戦会議の開催(9月17日)
モデル事業の実務的内容を検討
参加者:園田教授、専門技術者、区民会議委員

【主な決定内容】

- 全体スケジュール:プレモデル実施→説明会→本格実施
- 戸別スケジュール:事前調査→準備→工事
- 実施体制:専門技術者、区民会議委員等の4~5名のグループ
- 施工の範囲:「命を守る」ことに必要な工事を行うことを前提とし、部屋や工事箇所数は限定しない。
- 工法の選択:区民が自ら取り組めるよう普及・啓発するため、技術的・工学的な合理性、材料の入手が容易、施工が容易、経済性により決定する。
- 金具類の選択:小さい電化製品等は工事の対象とせず、世帯が自分でできるような方法を伝える。1戸あたり1万円が目安。専門技術者が調達する。
- 家屋の倒壊防止・火災予防等に関する情報提供:市が発行する耐震診断のパンフレット等を活用する。
- 対象世帯の要望への対応:事前調査時に金具サンプルを用いた説明をし、固定する家具類・移動場所・工法などの要望も把握。希望しない部屋は工事を実施しない。
- 撮影:区民会議委員が映像や写真を撮影する。

プレモデル実施(10月)

本格実施に先行してマンション、戸建て各1戸を調査・工事実施

【主な確認事項】

- きっかけを提供し、防災の意識啓発につなげる
- 工事の箇所・方法を各戸と調整することで、将来のライフステージの変化による住まい方を考えてもらう
- 簡単な工事を「自分でもできそう」と思ってもらい、地域に広げる発信源になってくれることが期待できる
- マンションは工事の際、管理組合との調整や管理規約の制約がある

対象世帯説明会の開催(10月28日)

事前調査・工事の内容(金具サンプルを使用)、協力事項(撮影、立会い、家具上の物品整理)などを説明

モデル実施(11月~12月)

【施工結果:19戸の合計】

- 施工家具合計:222個 ■ 施工数合計:439箇所(重複集計)
- 施工数の内訳:L字型等金具63箇所、アイプレート等金具42箇所等【対象世帯アンケート】
- 応募動機は、「専門家のアドバイスが受けられるから」が最も多い
- 日常面での変化では「安心して生活できるようになった」が最も多い【参加者意見】
- 対象世帯は、もともと耐震への関心が高かったが、一般区民への普及啓発の際には関心を低く設定して考える必要がある
- 普及啓発には、様々な家具固定方法の中から工夫して紹介する必要がある

モデル事業のまとめ・課題の把握(1月~2月)

【まとめ】

- 事前調査と工事日程にゆとりある実施計画と世帯へ説明・対話できる施工者により、満足度の高い工事ができる
- 多様な固定方法の中から、適切な方法を選択する必要があった
- 関心が高い場合は、具体策を提示すれば家具固定の行動に結びつく など

【課題】

- 家具転倒防止に取り組むためのきっかけが必要
- 適切な取り組みにつながる普及啓発資料の作成・活用
- 取り組みを推進する「組織づくり」「人材育成」が必要

モデル事業の成果の普及・提言書の取りまとめ(2月~4月)

- 家具転倒防止のきっかけづくり
関係者向けモデル事業報告会の開催
自主防災組織等への取り組み依頼 など
- 適切な取り組みにつながる普及啓発資料の作成・活用
内容:すぐに取り組める家具転倒防止策の紹介 など
活用:麻生区内の全世帯向け など
- 家具転倒防止の取り組みを推進する組織づくり・人材育成
専門技術者を講師とした実践講習会の開催 など

